

## 縄文土器文化に秘められた謎

日本先史古代研究会 会員 矢吹壽年

旧石器時代から新石器時代、縄文時代へかけて色々な人たちが渡来し、かつて日本は多民族国であったと考えられた。彼らはかつて住んでいた所の文化や習慣をそのまま持参し、話し、以前と同じ生活をしていただろう。ここで、変だと思った人はすばらしい。何で言葉が通じるの、という訳だ。中国の南東部、朝鮮半島、日本、満州の地区は現在でも同言語族で一括される。古朝鮮語で万葉集が解るのは当然で、何も朝鮮語が日本語のルーツとばかりとは限らないのである。日本語が朝鮮語のルーツかも分らないからである。これを発表した人は、日本より朝鮮の方が大陸続きで文化が日本より高かったという希望的前提があるのだと思う。

そして縄文土器は、新石器時代とは一線を画する、食生活に大改革を与えてくれた時代と指摘したい。粘土を練って形を整え、乾かして、焼いて器を作る文化は従来の獣肉の焼きや、熱灰に乗せて熱を通す貝や栗、里芋、椎の実の食べ方と比べて煮る、蒸す、炊くことによって、美味しく消化の良い食べ物として寿命が延び、衛生的にも人々を健康的にし、人口が急増したことが推測できる。

岡山市北区津島三丁目、岡山理科大学の進入路付近にあった「朝寝鼻貝塚」(あさねがはな)は約50年も前から知られた遺跡だったが、学問的な調査は行われず、宅地化して幻の貝塚と呼ばれていた。平成9年、加計学園・岡山理科大学の専用道路計画地点にこの遺跡の存在を予想し、学術調査を実施、現在の地表面から1mほど下に貝塚を再発見、貝層の上下に重なる地層から4000年前、縄文時代後期初頭～前葉に遡る土器や石器・骨角器・獣骨等を確認した。貝は汽水に棲息する大和シジミがほとんどだった。貝層から一才位のニホンザルを納めた深鉢型壺が出土し、愛玩用動物の飼育と葬祭の存在を確認し、さらに3m～3.5m下の地層から旭川下流域では最も古い6000年前の土器群(羽島下層式)を確認した。国内に野生種が無い米、小麦の粃殻(もみがら)のプラントオパール(珪酸体ガラス質細胞)が確認されて、小麦と縄文米の栽培が6000年以前に遡り、それまでの通説をひっくり返した。

現在の日本米に近いジャポニカ種(次の弥生時代に渡来)以前に長粒型のアジア南方系米を栽培していた事実を証明した。この種の栽培は陸稲(おかぼ)だったと言う説があり、陸稲に適した畑地は鹿田町辺りに広く存在する。鹿田町辺りは条里の地割りが存在するものの、江戸時代池田忠雄(ただかつ)の入封の頃、玉柏からの用水開鑿(かいさく)まで良田ではなかった所である。

縄文土器を用いて、柔らかくて美味しい食事が子供の死亡率を下げ、老人には長寿を、若人には健康と元気を与え、出生率の増加を高めた。獣肉の筋は土器で煮る事で消化が助けられ、コラーゲンとして薬膳を兼ねる事となった。幼児時期の高栄養摂取は彼等の知能の伸張にも寄与したことが考えられる。反面、長寿、出生率向上による人口の増加は極端な食物不足をもたらした。近所周辺だけでは猪や鹿も捕れなくなった。石器時代は獲物を採取して移動した時代だったが、縄文時代は簡単な栽培を行って定住が始まった時代でもあった。何時も期待通り収穫が出来るような懐の深い山などは、神の存在を予感させた。栗や栃も収穫の多い美味しい種類を選んで山に植えていた事も判った。畑、栗山を経営しながら鹿や猪を狩りに行くのである。

狩猟は怪我の多い仕事である。そのうえ短くて2・3日、長くなると10日に及ぶ旅に出る。経験の長い年長の男が首領になり、若い男たちを引き連れての旅である。無事に帰って来るように、豊猟と安全と留守宅の無事を祈る信仰の始まりである。男は女の貞淑を、女は男が浮気せぬようにと祈った。現在の神社仏閣での祈りにも似ている。旅ごとに一定の場所で行われるようになり、これが神社の起源ともなる。吉備の中山は左右に三角のおにぎり形の山の中央に鏡餅を据えたような三角形に見え、この中山からも縄文土器が発見されている。奈良の橿原(かしはら)神宮の境内は縄文時代の祭りの遺跡であり、背後の畝傍山(うねびやま)は風水の福地で奈良盆地を南に下ると美しい山形をみせる。ここからは男根形の石器を発掘、宝物殿に収蔵されている。朝寝鼻の貝塚遺跡の背後の半田山も美しい三山形に見える。これも風水福地といえる。縄文時代以降風水福地に遺跡が集まるように思える。自分たちの里に帰ってくる時の目印となる山の形を意識し記憶するようになった。目当て山の認識である。

風水という言葉は中国で6000年以前に興った神仙道という総合科学の一部門で、地理に適った運の良

い土地を選ぶ方法で、皇帝や王族、貴族の宅地の選定や、都市計画、埋葬所の選定に用いられた。東洋哲学に基づく方法で日本へは遣隋使派遣以降に伝達された、中国文化の一つである。それと同じ風水に則った遺跡として縄文遺跡が存在するのである。道教が成立するのは二世紀の五斗米道の成立と言われている。では卑弥呼が用いた鬼道は誰が教授したのか。秦の時代、徐福の渡来(前 219)を示唆する者があるが、定説に成っていないし時代違いである。東洋文化の真髄を指摘できるのは風水成立以前の海中の小国日本であった。韓国にも指摘できる。

縄文遺跡に数多く出土する性を思わせる石棒や女体を表現する偶像は、土器により調理することで、美味で身体を元気ににし、賢い子孫を産んでくれる女性、縄文の土器類、これを製作する作り手も女性でこの文化を褒め称えている。しかし火炎形土器にいたるところには男性の技術や思いを感じる。勿論土器の焼成には男性が専ら関わっただろう。中国文化の伝来、ここに朝鮮経由以外のルートを認識する必要があるとしたい。

ところが、儒教にせよ道教にせよ、過去に完成したものでないことを認識しておく必要がある。中国の道教聖地五岳の内、北の恒山(こうざん)には、三徳山(鳥取三朝の投入堂)の原型と思われ、崖面の上部に老子と孔子と釈迦を三聖殿として一緒に祀っている。成立以前の各々はそれぞれ東洋哲学から集大成し、共通点を多く持ち、他を凌駕するほどの特異性を独占しない。常識的な教養集積のための研究、修業は各々否定しないで三教を兼修する事も可能であった。各々が成立してしまうと唯一正当なのは自分たちであると他を牽制しあって謗(そし)りあうのである。

現在の中国には社会主義を選択したことにより、正当な道教は継続できなくて、存在はするが、過去の模倣の域を出ない。神話の意味さえも理解できていない。現在、活動しているのは台湾道教で、これらの説を見てみると、現在も進歩が見える。では仏教はどうかというと、完成した仏教として導入されるが、言語の相違のため漢文に翻訳される必要があって、この時に原インド哲学やインド主義的因習は中国的思想、慣習に改められ、加えられているとの意見がある。

「韓国の名宝」に載る楡目文(くしめもん)土器(注①)は紀元前三世紀ソウル郊外岸寺洞(あむさどん)出土。これは日本の縄文土器の先駆的なものと同様式といえるが、韓国でどのような発展的効果をもたらしたかはいまだ聞いていない。古代日本に伝わって火炎形土器にまで発展した縄文土器の文化は、古代朝鮮に於いては、以後の発展的遺物が紹介されていないのは、どのような事情があったのだろうか。紀元前一万五千年前、西アジア地中海沿岸に興った石臼、石杵を持つケバラー文化が現れ穀物利用を暗示する。パンの文化である。紀元前六千年前頃中国長江流域に土器を伴う初期稲作農耕文化が認められる。同じ頃日本にも縄文土器の発生、発展がC14年代(炭素 14 の崩壊率から年代を推定すること)で紹介されている。朝鮮半島に楡目文土器が現れるのは、前五千年と言われる。朝鮮に楡目文土器が定着してから日本に文化移動したとは言い張れない。加えて日本に縄文文化がもたらした効果は朝鮮では確認されていない。

これは古中国により人民を奴婢として一方的に略奪と収奪された結果と指摘したい。日本でも縄文文化に恵まれた人々を弥生代たちは駆逐し、捕らえた。卑弥呼が魏へ貢いだ生口は同時代の弥生人ではなく縄文人であった可能性が高い。弱肉強食は強者の論理である。朝鮮は漢の武帝の時代にも四郡を置かれ収奪されている。朱蒙(ちゅもん)の高句麗建国伝説も、中国によるしつこい収奪要求から人民を守る正義の王として描かれている。

ところで、後の朝鮮に繋がる箕子(きし)朝鮮も衛満(えいまん)朝鮮も現在の北朝鮮から中国東北部の地域で、遼東半島から中国の大遼河以西までに及んでいる。朝鮮の呼称が最初に出てくるのは中国の「管子」で前七世紀ごろの文献とされるが、中国の燕を攻撃し南の斉とは盛んに交易を行っていたという。北朝鮮の学会では古朝鮮を実在した部族国家とみなし、檀君神話(注②)は古朝鮮の存在を神話の形を借りて語りつたえたものだとして解釈する。古朝鮮は紀元前8~9世紀にはすでに強力な奴隷国家として登場していた。

というのなら、新石器文化では青銅器の武器に敵わないわけで、土器の使用は何時からだろうか。前一世紀頃中国東北地方の影響をうけ、無紋土器を製作、平行して流入して来た青銅器を使うようになったというが、これには一説があって前六世紀ともする。土器は紀元前後頃瓦質土器に発達する。最近著しい発掘数の上昇に伴い前五~六世紀におよぶものも紹介されている。箕子朝鮮は前 1122 年中国殷の賢人箕子(きじゃ)が古朝鮮に渡り檀君の王位を継承した。このとき檀君の齢は 1908 歳、一説には 1038 歳と「三国

遺事」(1280年編)に記録されている。しかし遺物等で証明されたものは無い。箕子朝鮮は青銅文化、衛満朝鮮は鉄器文化といえるようだ。

前195年燕の将軍衛満は朝鮮王準に降り遼西の守りを任される。中国の燕の精鋭鉄武器を装備していた衛満の軍は一年後箕子の王位を篡奪、準は海を渡り、南韓に王となったという。衛氏朝鮮は前108年漢の武帝の攻撃を受けて滅ぶ。その故地に楽浪・真番・臨屯の三郡を設置する。翌年玄菟郡を設置して税の貢納を督促する。税が納められない者は法に基づき奴婢として漢へ送られる。土地を捨てて逃げる者は難民として収容され奴婢とされた。この後、真番・臨屯を廃止させ、玄菟郡を西へ後退させ、前37年朱蒙が高句麗を建国する。

古代、日本の縄文・弥生・古墳の時代は、東洋に於いては奴隷制度を認めた時代であった。卑弥呼も行ってた殉葬の被葬者はこれら奴婢達であった。中国の皇帝、朝鮮の伽耶王墓にも殉葬が見られるが日本の古墳は如何に。

注① 櫛目文土器＝朝鮮の考古学的区分で紀元前800年から1500年頃に及ぶ櫛の歯状の模様をもつ土器で日本の縄文土器の初期様式と相似。

注② 壇君神話＝古い朝鮮の神話で紀元前2333年に北部朝鮮に壇君が建国し彼は1908歳まで生きたと日本の記紀に相当する三国遺事(1280年編)に載っている。現代に続く朝鮮と区別して「古朝鮮」と称した。壇君は古朝鮮の祖との神話が残っている。

筆者追記 今回原稿を書いている思いつきましたが、「卑弥呼の墓には殉葬が為されていると東夷伝に書かれており、真実であれば、殉葬の無い墳丘墓は卑弥呼とは関係のない。」こととなります。今回の小論に対する皆様の質問や意見など、お考えを教えてください。